

不登校児童生徒の支援に向けた 2方向からのアプローチ

- 1 誰一人取り残さない重層的な学びの場づくり
- 2 従来のカタチをつくり替えようとチャレンジする学校への支援



誰もが学びたい・

1日の学習時間

- 「30分未満」・・・10.3%
- 「30～1時間」・・・11.5%
- 「1～2時間」・・・16.3%
- 「2～3時間」・・・14.5%
- 「3～4時間」・・・12.0%
- 「4時間以上」・・・8.8%
- 学習していない・・・15.0%

不登校児4人に1人 1日2～4時間勉強

民間調査

明光義塾を運営する明光ネットワークジャパンが中高生の不登校

令和7年9月8日

この場でしかできない価値●意義は、これが高まっていくだろう。

察が教員の学びの場と「にも触れておきた化祭は、特に準備段階同士の不協和音や、教する反発など、思いが困難に直面することが教員の思いが溢れ、伝わらないときに思い

行事を通してだけでは日々の授業や学校生活の人間関係構築にこ事の手台がある。日々な生徒との関わりが、秋へとつながっていくなるだろう。

についての調査結果を公表した。4人に1人以上が1日2～4時間の学習習慣があることや、保護者の多くが社会性の育ちにくさを不安に感じていることなどが分かった。

現在不登校中の中学生、高校生の保護者各200人から回答を得た。調査期間は7月24～28日。不登校になった時期は、中学1年が29・3%で最も多かった。小学校高学年20・3%、中学2年15・8%と続いた。

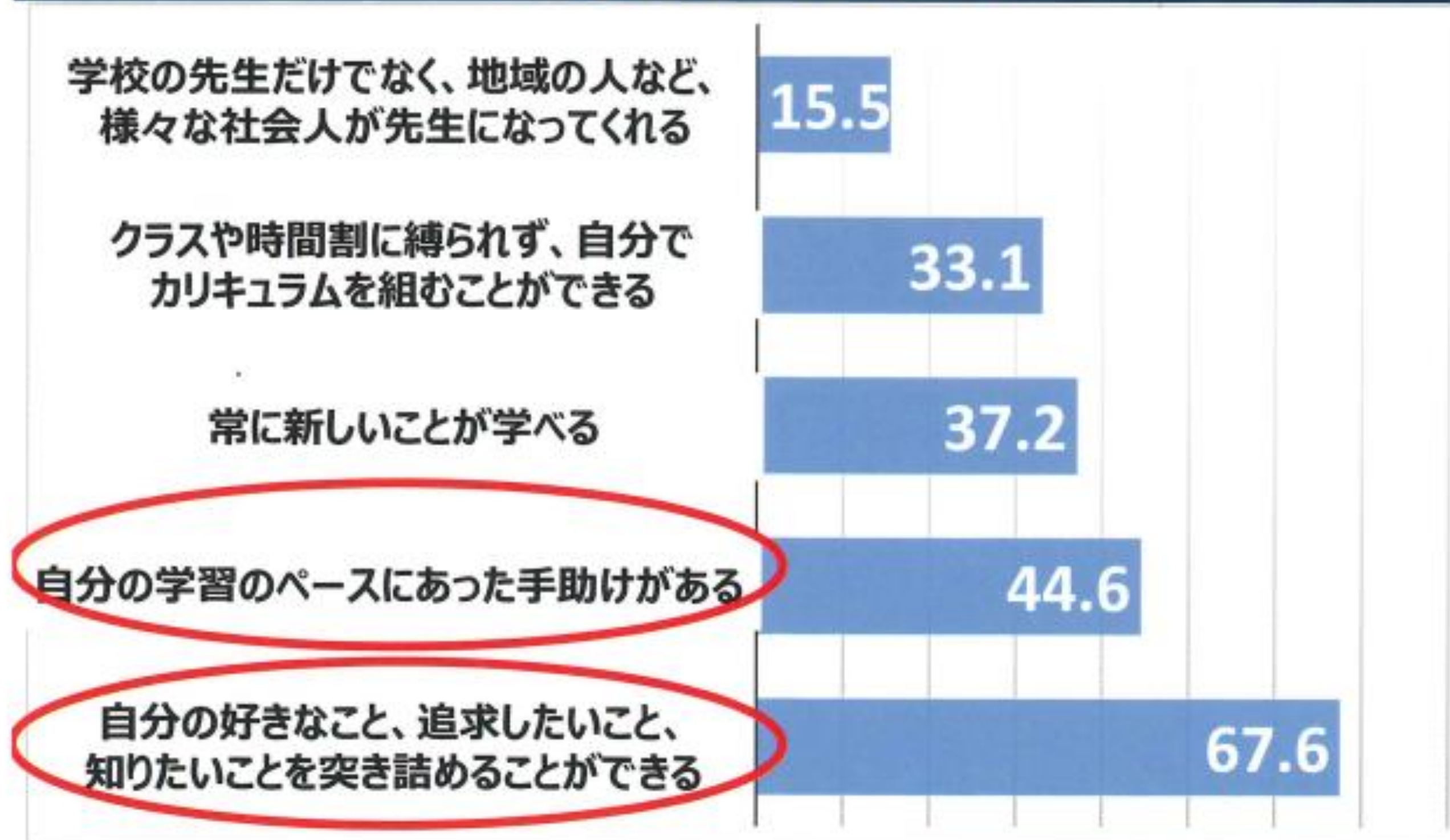
かかった17・5%と「一因だと思う」30・0%が合わせて47・5%。関係なかった「40・3%を上回った。1日の学習時間は、「30分未満」10・3%、「30分～1時間未満」11・5%、「1～2時間未満」16・3%、「2～3時間未満」14・5%、「3～4時間未満」12・0%。4時間以上が8・8%いる一方、「学習していない」も15・0%いた。

不登校児の学習支援制度や手段について知っているものを複数回答で聞くと、「フリースクール」が52・3%で唯一の過半数。次いで「通信制高校」が49・3%、「学校内の別室登校」が

41・5%だった。保護者として不安なことを複数回答で聞いた。「社会性が育ちにくいこと」が44・3%で最多。「学力低下や学習面の不安」42・0%、「精神的な健康状態」41・5%、「友人関係の構築」41・3%と続いた。学習面だけでなく、人間関係に不安を感じる保護者が多かった。中学生保護者200人に、高校の進学先の検討状況を複数回答で聞いたところ、通信制が48・5%、全日制が40・0%、定時制が26・0%だった。

高校選びで重視する点を複数回答で聞くと、「登校日数や時間の柔軟性」39・4%、「学習の進め方に柔軟性があること」38・2%、「カウンセラーなどによるメンタルサポートの充実」37・6%の順に多かった。

不登校又は不登校傾向にある現中学生と卒業生(卒業後～22歳) 学びたいと思える場所



学びたいを叶え、多様な学びの場と学び方が選べる

"なないろ"のチャレンジ教室(構想)



メタバー空間
支援センター

佐久市の

えらチャレ

芸術分野

絵画やクラフト、音楽など多様な芸術分野に特化し、自由に表現することができる
チャレンジ教室

ICT分野

タブレットを活用して、プログラミング学習や、様々なデジタルツールを使った活動ができる
チャレンジ教室

スポーツ分野

サッカーや野球、卓球など体を動かす活動を通して、おもいきり活動できる
チャレンジ教室

自然分野

豊かな自然の中で、植物・動物・昆虫など様々な生き物との触れ合いを味わえる
チャレンジ教室

自立学習分野

自分が知りたいこと、興味のあることを、自分のペースを大切に学習できる
チャレンジ教室

対話的分野

他者との対話や交流を通して、多様な視点や考え方を学び、社会性を育む
チャレンジ教室

科学分野

様々な素材や薬品を使った科学実験が楽しめる。実験を通して、観察実験の技能を高める
チャレンジ教室

教育委員会の役割

子どもたちの
やってみたい!
行ってみたい!
をサポートします。



佐久市"えらチャレ"マップ (青写真)



背景

明治

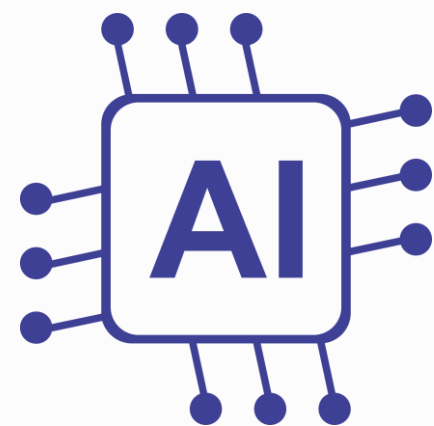


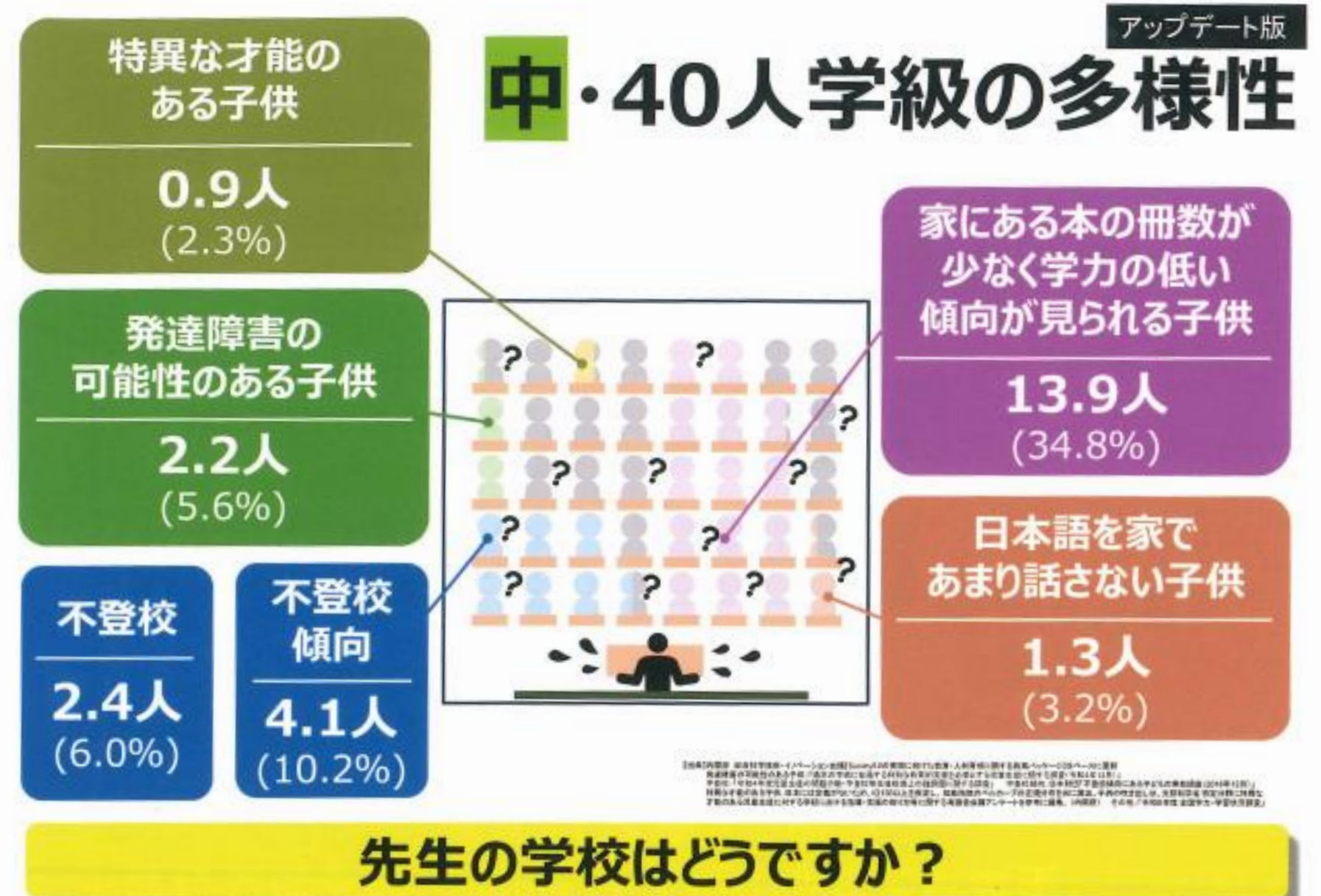
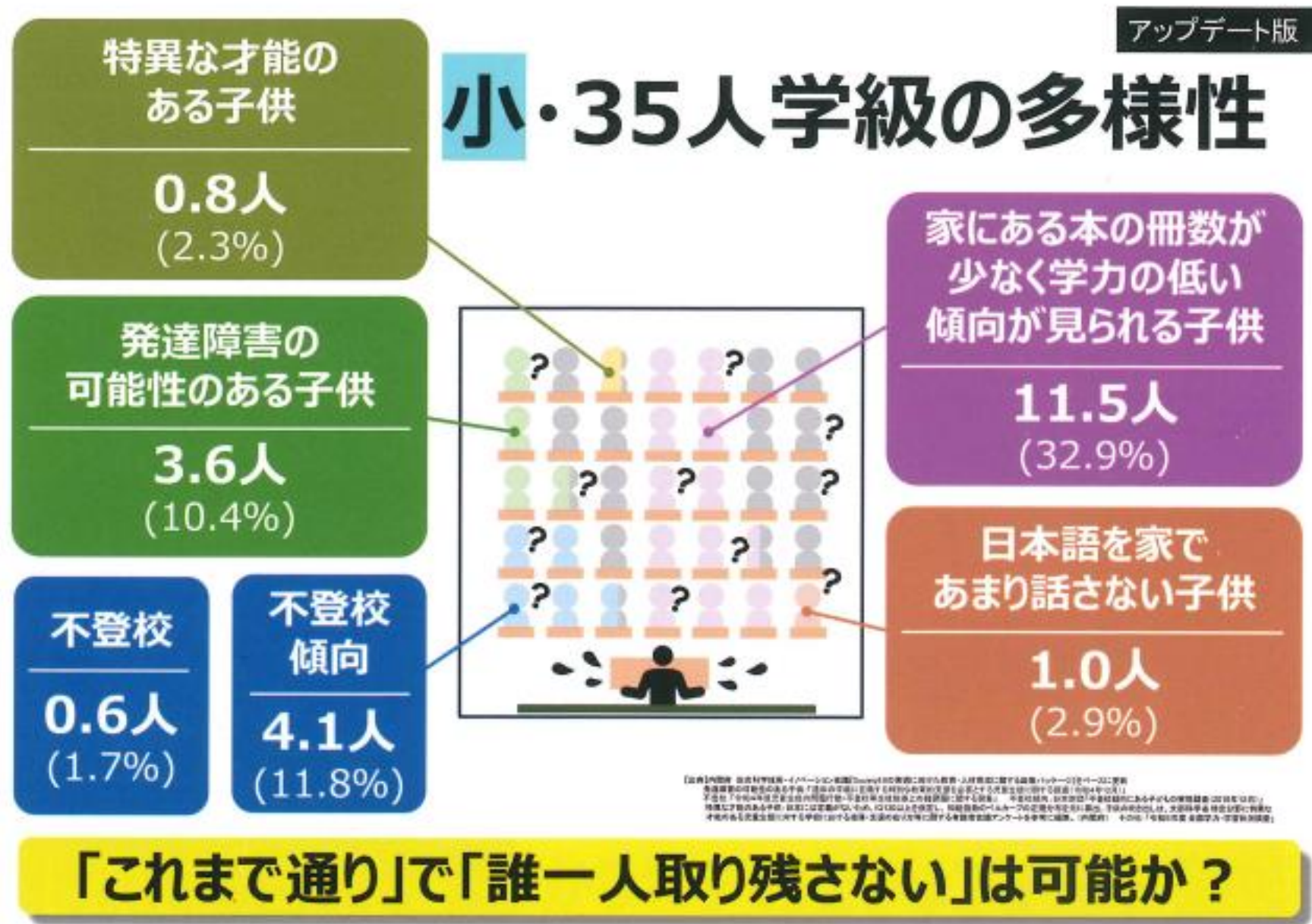
現在



社会の変化

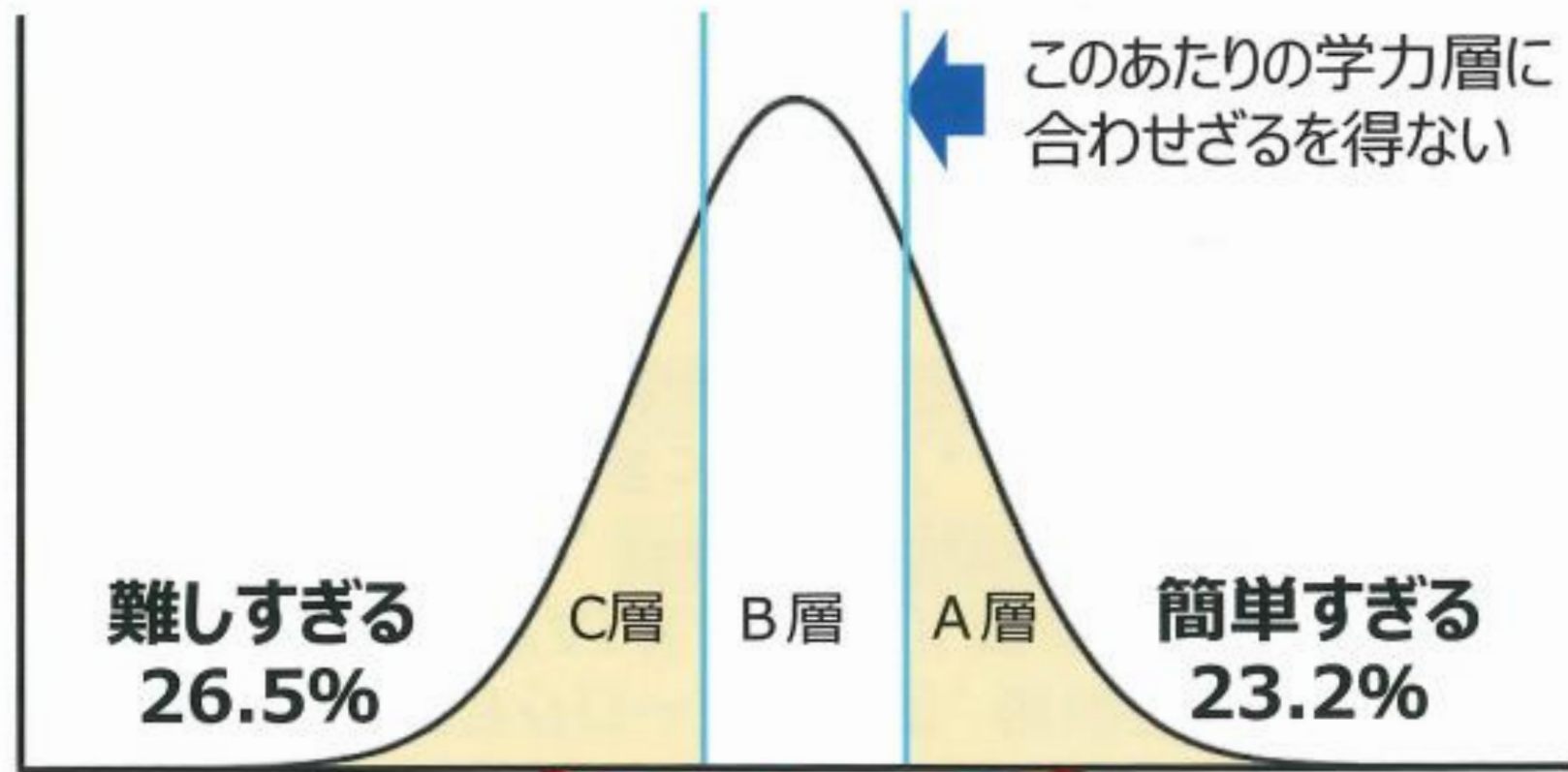
社会の仕組みも、科学技術や
経済も、人々の価値観も、そし
て教育へのニーズが大きく変
化しているのに……





理解度や学力もバラバラ

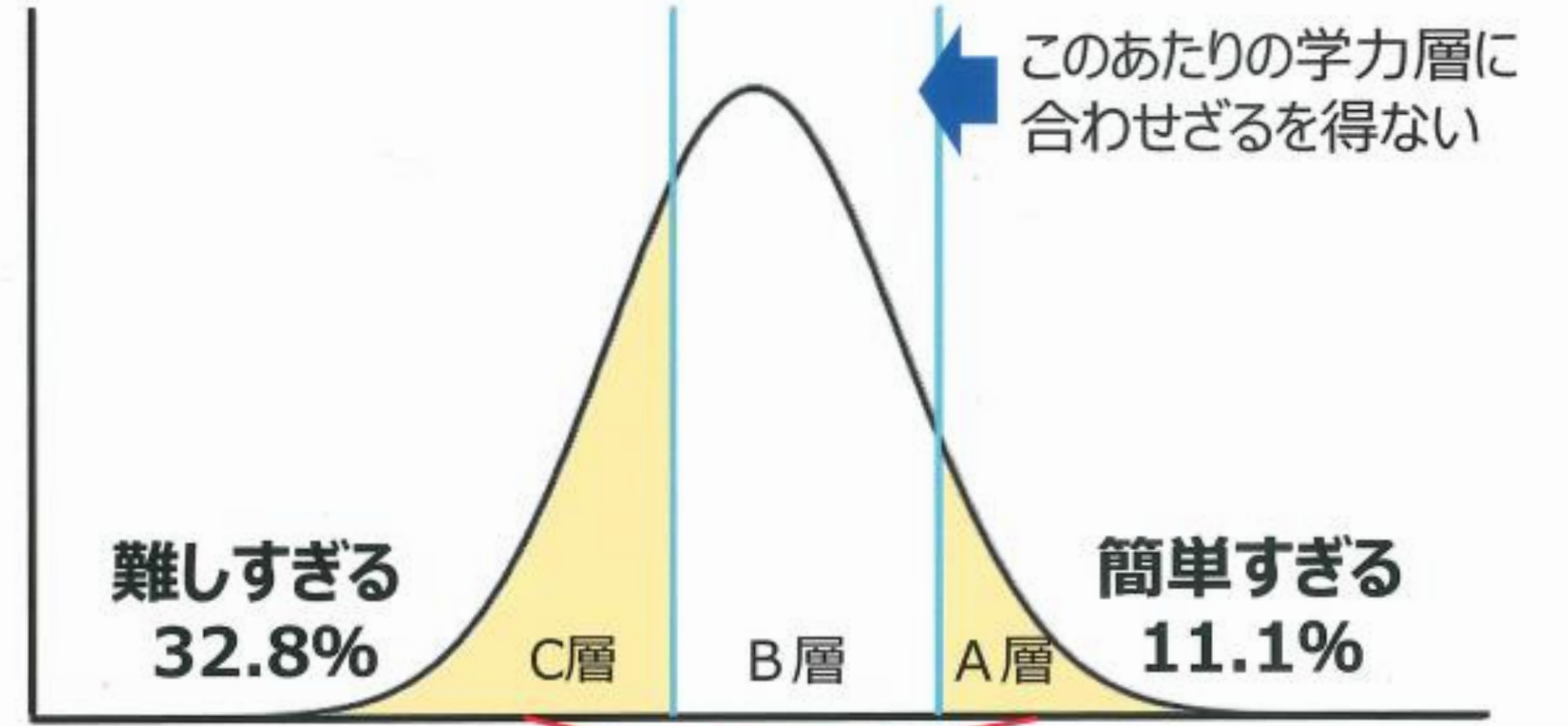
小4～6



この層が置き去りに

理解度や学力もバラバラ

中1～3



この層が置き去りに



合田 哲雄
文化庁次長

【文の出典】リヒテルズ直子、菅野一徳『公教育で社会をつくる ほんとうの対話、ほんとうの自由』P234より作成

「好き」をあきらめさせて、
「嫌い」を無理強いし、
総得点を上げるという
学校教育のゲーム

人と違うことの価値が高まってる時代なのに

新たな学校づくりにチャレンジする佐久市小中学校の取り組み

(R7年度市内21校のグランドデザインをテキストマイニング)

